

1. 授業のねらい・概要

本講義では、グローバルな経済環境の変化の中で、①成長著しいアジアへの進出における注意点、②成長性と収益性を確保するための経営戦略、③高度な生産技術の効果的な発信、の3点を中心のテーマに据え、網羅的に学修しながら、日本企業が考えるべき、アジアを中心とした国際経営戦略を模索していきたい。具体的には、外国直接投資（FDI）のメカニズム、アジア諸国の投資環境の変遷と実態、経営戦略の事例研究等を講義で網羅しつつ、映像を通じて、特に日本の製造業が培ってきた高度な技術がいかに発展し世界に普及してきたかについて、その追跡を辿っていく。

2. 授業の進め方

学生諸君が興味を持ってくれるような講義とするべく、映像視聴を取り入れたり、担当教員の実務・海外経験を話に交えたりする等の工夫を凝らす。さらに、より主体的な姿勢がより良い理解に繋がるので、日頃から、メディアで世界の経済・社会情勢をフォローしておくことを強く薦める。また、数回、受講生に小課題を課すことで、理解度を確認することとしたい。

3. 授業計画

1. イントロダクション	9. 企業の戦略事例：製造業②（日用品・食料品）
2. 直接投資のメカニズムとその影響	10. DVD 視聴①（電器産業の技術発展）
3. ASEAN 諸国の投資環境の実態①（南部諸国）	11. DVD 視聴②（自動車産業の技術発展）
4. ASEAN 諸国の投資環境の実態②（北部諸国）	12. 企業の戦略事例：非製造業（小売・運輸）
5. 韓国の投資環境の実態	13. 成長性・収益性の確保①（生産、マーケティング）
6. 中国の投資環境の実態	14. 成長性・収益性の確保②（R&D, 人事）
7. インドの投資環境の実態	15. 本講義の総括
8. 企業の戦略事例：製造業①（自動車・電機）	

4. 到達目標

日本企業によるアジア進出の実態につき、企業の国際経営戦略と、アジア諸国の投資環境の両面から、複眼的思考で詳細に分析できることを目標とする。

5. 準備学修に必要な時間、またはそれに準じる程度の具体的な学修内容

レジュメを当日配布するため、準備学習は不要だが、むしろ、講義内容を振り返りながら、復習を行うことが重要。

6. 成績評価の方法・基準

平常点（30%）及び期末試験（70%）にて、総合的に評価する。

7. テキスト・参考文献

テキストは特に限定しない。毎回の授業時で必要なレジュメを配布する。参考文献は、講義の中で適宜紹介していく。

8. 受講上の留意事項

「経営学基礎」や「日本とアジアの経済」を履修していることが望ましいが、必須条件ではない。講義中は、私語は慎み、解説を聞くだけでなく、補足情報もノートすること。平常点が著しく悪い場合は、期末試験を受験できないことがある。また、留学生には、経済学・経営学の基礎文献を読める程度の日本語能力が求められる。